

国からの交付税など23億円も減少

平成19年度決算を審議する決算委員会が、10月29日30日に開かれました。日本共産党議員団から、猿渡（えんど）久子市議が、決算委員として質疑しました。

別府市の平成19年度の歳入決算額は、一般会計約422億8400万、特別会計約646億9200万、計約1069億7600万。	歳出は、一般会計約417億9700万、特別会計約649億1200万、計1067億90万。差引き約2億6740万の赤字となっています。
---	--

ダブルパンチで削減

えんど久子市議はまず、財政状況について質問しました。

市側は、「15年度決算と比較して地方交付税と臨時財政対策債ともに削減となり、合計で23億2600万あまり減っている」と答弁。ダブルパンチで減っています。

えんど市議は「国は、三位一体改革を『地方分権の推進』を看板に、

『歳入・歳出の地方の自由度を高め真の自立を図るため』と言ってすすめてきたが、日本共産党は、国の責任を後退させ地方自治体への支出の大幅削減をめざすものと批判してきた。今その通りになっている」と、自民・公明の政治を批判しました。

市民負担は

1年で9億円も増えたのに

また、18年度との比較で「個人市民税は約9億1900万の増額で、これは税源移譲、定率減税の廃止等が主な要因」と答弁。

しかし、地方交付税や臨時財政対策債、所得譲与税などが減っているため、前年度比較で差引き7億4000万あまり経常一般財源（毎年経常的に入る収入）は減っていることがわかりました。

昨年は、定率減税が全廃され市民の負担は9億以上も増えたのに、国からの財源が大幅に減り市の財政は苦しくなるばかりです。

えんど久子市議は、「財政は厳しいが、市民生活が大変な中、福祉や教育予算を切りつめるべきでない。職員も病気が増えており、健康に働けるよう無理のない配置が必要」と要望しました。



日本共産党 別府市議団

げんきニュース

発行責任者 平野文活
別府市石垣西8-2-31
TEL0977-22-6576

No.360
2008.11.5.

えんど久子HP

<http://www.happyendo.net/>

入札制度改革で3億以上の効果

市内業者を優先に

決算委員会で、えんど久子市議は入札制度改革について質問しました。別府市は、県下でトップをきって昨年度電子入札制度を本格運用。市内業者の発注割合を質問したところ、発注件数では物品で86.8%、工事では90.9%が市内業者と答弁がありました。

以前から一般競争入札を要望

また、昨年8月、一般競争入札を試行導入しました。落札率を質問したところ、平均落札率は87.6%、一昨年と比べ6.38%落札率が下がったことがわかりました。

えんど久子市議は、「かりに総予定価格を30億とした場合、単純計算で3億6000万、財源に余裕ができたことになる。以前から談合防止のため一般競争入札の導入を要望してきた経過があるが、今後も地元業者に配慮しながら入札制度改革にさらに取り組んでもらいたい」と要望しました。



平成20年（西暦2008年） 10月30日 木曜日 第17483号

市税の高額滞納件数が増加

差し押さえで債権保全

別府市議会決算委でただす



猿渡 久子市議

平成19年度別府市一般競争入札（入札）

件・11億0926万円（県民税を含む）で、前年度に比べて金額で2億9933万円減少したものの、件数では30件増加した。

猿渡久子氏（共産党）は「昨年の決算委員会でも、高額滞納者に対して

税協議に応じていただけない方については、財産調査を実施し、預金や給与、不動産等の差し押さえをするなどして滞納整理に取り組んでいる。高額滞納者へは他の滞納者以上に厳しく対応しており、19年度決算では（1

00万円以上の）高額11億0926万円のうち、48.8%に当たる5億4141万円を差し押さえ等により債権の保全を図った」と答弁した。

猿渡氏は「低所得者の負担が増えている中で、今後も高額滞納者には、特に払えるのに払わない悪質と思われるものについては厳しく対応しなければ、市民の理解は得られない。今後もしっかり取り組んでほしい」と要望した。